

令和6年度第1回忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議議事録要旨

日 時	令和7年2月6日（木）午後1時から午後2時50分まで
場 所	忠岡町シビックセンター本館3階 研修室1・2
出席者	（忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証委員） 杉原会長、萬野委員、古川委員、中嶋委員、安藤委員
欠席者	花野委員
事務局	杉原町長、立花町長公室長、岩佐経営戦略課長、明松経営戦略課係長、仲岡経営戦略課 主査
傍聴者	1名
配布資料	1. 会議次第 2. 令和7年度第1回 忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証 資料 3. 委員名簿
会議次第	1. 開 会 2. 町長挨拶 3. 会長挨拶 4. 委員及び事務局紹介 5. 会議の公開、非公開について 6. 令和5年度忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果について 1. プロジェクトごとのKPI 結果について 2. 重点プロジェクトの現状について（効果検証） 7. 閉 会

議事の経過	
発言者	発言内容
町長	<p>1. 開会</p> <p>2. 町長挨拶</p> <p>本日は皆様方におかれましては公私なにかとご多用のところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、新任の委員の方々には就任に際しましてご高配を賜り誠にありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。</p> <p>最初に、私事ではございますが、昨年10月に2期目の町政を担わせていただくことになりました。改めてその期待の大きさと職責の重さに身の引き締まる思いでございます。住民の皆様が忠岡に住んで良かったと感じていただけるよう、しっかりと忠岡町の舵を取って参りたいと固く決意をしているところでございます。さて、現在本町の人口は第6次忠岡町総合計画における将来人口の目標値を下回るペースで減少している中、忠岡町が将来に渡って持続可能な町づくりを進めていく上で、人が集う魅力ある取り組みを進めていくことがますます求められているところでございます。そのような中で広域的な取り組みといたしまして、魅力ある地域を形成できればと、泉大津市、高石市、忠岡町の二市一町で、広域連携協定を締結しまして、広報での共同記載、福祉バスの相互利用などに取り組んで参りました。今後も施設や職員の人事交流など、協同できる事業についても模索しているところでございます。</p> <p>一方、町独自では「健幸」をキーワードとした事業や、忠岡駅周辺の魅力あるまちづくり施策などの取り組みも進めているところでございます。また、以前、町の有名人とまちづくりを進めてはというご意見をいただく中、今回花人として活躍されております、赤井勝さんを万博アンバサダーとして任命し、大阪関西万博でのイベントを通じて内外に向けて町の魅力発信をする予定でございます。このような取り組みにも関わらず人口減少、高齢社会による社会構造の変化のスピードに自治体として対応することが厳しい場面もありますが、私はまず、住民皆様に住んで良かったと実感をしていただくことが将来の持続可能な町づくりに繋がるものと深く認識をしているところでございます。しっかりと地に足を付けて取り組むことも重要であり、そのような意味からも本検証会議の果たす役割は大変重要であると考えております。本日は皆様方からいただきました効果検証結果とご意見などを確認させていただくとともに、会議の場におきましても忌憚のないご意見、ご提案を賜りまちづくりに活かして参りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。また会長の杉原会長には、会議の進行をとりまとめいただき、またご苦勞をおかけいたしますけれども、よろしくお願い申し上げます。本日は最後までよろしくお願いいたします。</p> <p>3. 会長挨拶</p>
杉原会長	<p>本日は、委員の皆様におかれましては公私御多忙のなかご出席いただきまして誠にありがとうございます。会長を拝命しております羽衣国際大学の杉原でございます。開会にあたりまして私からも一言ご挨拶を申し上げたいと思います。本会議は、将来に渡って地方の特色を活かした自立的で持続的な社会を創成するということを目指しております。</p>

	<p>これまでも住民の皆様はもとより地域に関わる数々の関係者の皆様、それから各種団体の皆様と連携をし、本町に置かれましても多様な取り組みが推進されて参りました。このような中、さきほど町長のお話の中にもございました、忠岡町、泉大津市、高石市との間で、一昨年、二市一町の連携協定を締結され、様々な分野で連携が具体化されております。持続可能な町づくりに取り組まれているというお話非常に心強くお聞きいたしました。今後も様々な模索がなされていく中、本会議も各分野の専門の委員の皆様にお集まりいただきまして、色々な角度から忌憚のないご意見を頂戴出来るものと期待をしております。今回は総合戦略に基づく、各種取り組み結果について既に委員の皆様から書面で回答を寄せていただき、それを事務局の方で集約をしていただいております。活力ある忠岡町の町づくりに向け、限られた時間ではございますが、委員の皆様とともに活発な議論を進めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>4. 委員及び事務局紹介</p> <p>5. 会議の公開・非公開</p> <p>事務局 それでは早速ですが議事に入らせていただきます。本日の案件につきまして次第に沿って進めて参ります。まず、次第の5、本会議の公開・非公開についてです。忠岡町審議会等の会議の公開に関する指針におきましては、町長その他の執行機関に置かれる付属機関の会議は原則公開ということになっておりますけれども、公開でよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なしの声)</p> <p>異議がないということですので、この会議は公開とさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">(傍聴者入場)</p> <p>6. 令和5年度忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果について</p> <p>1. プロジェクトごとの KPI 結果について</p> <p>杉原会長 それでは続けて参ります。次第の6「令和5年度忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果」につきましては、既に先刻申し上げました通り、委員の皆様より事前にご意見や取り組み効果について書面でご回答いただいておりますので、その集約結果をご報告させていただきます。それでは1の「プロジェクト毎の KPI 結果」について事務局よりご説明いただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>事務局 説明</p> <p>杉原会長 4つの重点プロジェクトにつきまして一括してご説明いただきました。4つそれぞれテーマがあるわけですがけれども、大前提としてはやはり少子高齢化に伴う人口減少社会というのが、社会構造の大前提としてありまして、相互に関係してくるテーマもあろうか</p>
--	--

<p>萬野委員</p>	<p>と思います。これからの議論につきましては1から4のどこからでも結構ですので感想、コメント、あるいは事務局からのご説明に対するご質問をいただければという風に思います。</p> <p>私の専門は商工業、産業分野で、総括的に見るとプロジェクト3が中心になると思っています。事前意見でも2番、3番について述べましたが、この小さな町で企業を呼び込むのは正直かなり難しいと感じています。</p> <p>忠岡町は面積が約3.97平方キロメートルと日本一小さく、企業が事業を興すためのまとまった土地がないことが一番のネックです。実際に声をかけても、「土地がない」という理由で敬遠されるケースが多いです。</p> <p>今後は新浜の埋め立てに期待している企業もありますが、現状では産業活動は新浜周辺に限られており、駅周辺や住宅地では昼間に人がほとんどいません。若い人は少なく、高齢者が多い状況です。</p> <p>商工会としても駅周辺活性化について町に提案し、忠岡駅から600メートル圏内での助成制度も設けていただきましたが、今のところ手を挙げる事業者がなく、十分な効果は出ていません。国や府、町の補助金を活用しながら、何とか活性化につなげたいと考えています。忠岡町は難波まで30分以内、関西空港にも近く、住環境としては非常に良い町ですが、商工業、とりわけ商店の活性化は難しく、飲食店が少ない点も課題だと感じています。</p> <p>また、大きな課題として忠岡駅の高架事業があります。踏切による交通渋滞が慢性的で、朝夕の時間帯には車がほとんど動かず、トラックの通行にも支障が出ています。高架事業が進めばアクセスが改善され、企業立地の可能性も広がるのではないかと考えています。</p> <p>商工会としては、新浜に限らず町内の遊休地をできるだけ活用できるような施策を町としても検討してほしいと思っています。工場が立地すれば雇用が生まれることが一番ありがたいのですが、現状ではそれが難しいため、遊休地の有効活用が重要です。</p> <p>また、私が関わっているプロジェクト3-3の正木美術館についてですが、理事長として運営に携わる中で多くの課題を感じています。収蔵品は水墨画を中心とした作品が多く、分かる人には評価され遠方からも来館がありますが、大々的な集客や宣伝は難しい状況です。ポスター制作にも費用がかかり、YouTubeやSNSも活用していますが、十分とは言えません。</p> <p>茶道関係者など、関心のある層は来館してくれますが、水墨画は紙や布の作品が多く、保存や修復にも費用がかかります。各種補助金を探しながら対応していますが、町として文化・芸術を専門に支援する部署がないことを指摘されることもあります。文化事業はどうしても経費がかかり、収益は限られるため、町としてのバックアップがあればありがたいと考えています。</p>
<p>杉原会長</p>	<p>色んな角度からご意見を頂きましたし、またそういう取り組みをされているのか、と勉強になる、教えて頂くことが出来ました。後でまた収斂していきたいと思いますので、とりあえず最初は一言ずつ感想をうかがえればなと思います。</p>

古川委員	<p>労働組合の立場から見ると、重点項目 3 のうち、社会増減の指標で両方とも数値が増えている点は、非常に良いことだと思っています。これまで町がいろいろな施策を積み重ねてきた成果が、少しずつ表れてきているのではないかと感じています。</p> <p>こうした点をより一層アピールしていただいて、町の中でも弱い層の人口を増やして欲しいと思います。そして、その人たちが将来的に地元企業に就職してくれるような、つながりのある動きを進めてもらえたらと思います。</p> <p>私が就職した頃は、いわゆる就職難の時代で非常に大変でしたが、今は若者が売り手市場と言われる状況になっています。自治体でも定員割れが起きていたり、就労者の確保自体が難しくなっています。</p> <p>そうした中で、忠岡町に住めば近くに働き先がある、そこで暮らし、子育てができる、そういう町の動きや魅力をしっかりと発信していくことが大事だと思っています。</p> <p>今後のプロジェクトについても、ぜひ継続して取り組んでいただき、若年層の人口増加について、毎年少しずつでも成果を出していけるよう進めてもらえたらと思います。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。この社会増のところはまた後で少し議論を深めて参りたいと私も思っております。</p>
安藤委員	<p>私は奈良県でケーブルテレビ事業を行っている会社に出向していたことがあり、奈良県の山間部で仕事をしていました。そこは 17 市町村ほどあり、人口が少なく独居老人が多い地域でしたが、そうした地域にインターネットの光回線を整備する取組を進めてきました。</p> <p>光回線を整備することで、企業誘致につながったり、独居老人や子どもの生活を支えるために IoT を活用した取組を進めたりする市町村が多くありました。</p> <p>忠岡町については、土地が少ないという課題は確かにあると思いますが、テレワークについては少し時代がずれてきた面はあるものの、引き続きそうした取組を組み合わせながら進めていくことも重要ではないかと考えています。</p> <p>また、資料の中で言うと、プロジェクト 2 の③、創業支援件数が 12 ポイント増えている点については注目しています。現時点では、どのような形で創業が行われたのか詳しい中身が分かっていないため、その内容を確認しながら、良い芽があればしっかり応援していくことで、忠岡町の中で新たな取組が育っていくのではないかと考えています。</p>
中嶋委員	<p>私からは大きく 2 点あります。</p> <p>まず 1 点目ですが、金融機関の立場として、地域で何ができるのかを常に考えながら取り組んでいます。空き家対策や不動産の話になりますが、土地がないと言われる一方で、実際には有効に使われていない土地や不動産も多いと感じています。限られた土地をどう有効に使っていくかという点で、不動産の有効活用についていろいろな提案をさせてもらっています。人口の話で言いますと、現在、国交省の補助金で「子育て支援型共同住宅推進事業」という制度があります。一室あたり 100 万円の補助が出るもので、例えば 100 戸の共同住宅を建てると 1 億円の補助になります。これは今まさに進行中の取組</p>

ですが、実際にある地主さんに対して、補助金を活用しながら子育て世帯向けの共同住宅を建ててはどうかという提案をしています。その土地は今、中途半端な形で使われていて、非常にもったいないと感じています。

子育て支援型ということで、公園を設けたり、ベランダから子どもが落ちないような設備を整えたりと、条件はいろいろありますが、こうした住環境を整えることは非常に重要だと思っています。人が暮らす上では、衣食住のうち「住」が特に大切で、人口を増やす、子育て世帯を呼び込むためには、こうした準備が欠かせないと考えています。

2点目ですが、「小さな町で職住近接プロジェクト」に関連して、新設法人が大きく減っている点は非常に残念だと感じています。日頃、取引先を回る中で、堺から泉南、和泉あたりでも「3000坪ほどの工場用地はないか」「500坪くらいのまとまった土地はないか」といった相談を受けることが多いのですが、実際にはなかなか見つかりません。

きれいな更地がそのまま残っているケースはほとんどないため、使われていない土地や空き家になっている場所を、再開発のような形でまとめて工場用地として活用できないか、行政や関係機関と連携しながら進められないかと考えています。

不動産の有効活用を進めることが、人口の増加と法人数の増加の両方につながるのではないかと感じています。その点について、今後も検討を進めていきたいと考えています。

杉原会長

はい、ありがとうございました。まずは皆さんから、いろんな角度で全体的な印象や感想をいただきました。個別の検証結果はこの後、事務局から説明してもらいますが、最初に全体のコメントを伺いたかったということです。委員の皆さんからも、やっぱり人口減少や社会増の話が多く出たと思います。

私は自己紹介が遅れましたが、人口問題を専門に勉強しています。去年の委員会でも話しましたが、自然増、つまり出生率を上げて出生数を増やすというのは、正直かなり難しいと思っています。今でも出生率を政策テーマにしている自治体はありますが、率がどれだけ上がっても、もう絶対数が増えないんですね。20代・30代の女性の数が急速に減っているんで、絶対数が増えません。よく冗談で、少子化を緩やかにするには女子学生が全員6人産めば…みたいな話もしますが、それぐらい現実的に厳しいということです。合計特殊出生率を1.8や2.0にしても、焼け石に水という感覚です。自治体単独で自然増を政策でどうにかするの、なかなか現実的ではありません。

そうすると、やっぱり社会増、つまり転入人口をどう増やすかという話になります。ただ、全国の自治体がそれを言い出すとパイの奪い合いになるという問題は当然あります。それでも、近隣を見ていると、堺市の西区や泉大津市で社会増が増えている例もあります。じゃあ、なぜそこが増えているのか、というのを考える必要があります。

そこで事務局にも提案したいのは、「なぜ忠岡町に転入してきたのか」「なぜ忠岡を選んだのか」というアンケートを取ってはどうか、ということです。出て行った人を追いかけるのは難しいですが、入ってきた人なら理由を聞けます。理由が分かれば、政策の絞り込みにつながると思っています。

専門家の間でも言われていますが、社会増は多くの場合、住宅政策と結びついています。買いやすい価格の住宅があれば若い人は来るし、なければ来ない。1億円のタワーマ

	<p>ンションを建てても増えませんが、手頃な価格の戸建て住宅があれば若い世代が入ってくる、という考え方です。住宅政策と社会増はリンクしていると思います。</p> <p>もう一つ大きいのが教育です。子育て世帯や夫婦で来る場合は、小学校区・中学校区がどこかというのが非常に大きな関心事になります。さらに私立中学・高校に通えるかどうか影響します。近隣で言うと、高石市は羽衣学園や清風南海など私立中学があるので、そこを意識して住まいを選ぶ人もいと聞きます。世代によって転入の動機は違うと思いますが、若い世代を受け入れるには、住宅と教育、この2つが大きいのではないかと感じています。</p> <p>ただ、本町の場合はまだエビデンスがあるわけではないので、転入者に「なぜ転入したのか」を確認して、根拠を持って政策を考えていけたらいいと思っています。</p> <p>私からは以上です。言い残しがなければ、次は具体的な重点プロジェクトの効果検証に移って、事務局から説明してもらいます。そのうえで、先ほどの発言もさらに深掘りしていければと思います。事務局、よろしくお願いします。</p>
事務局	説明
杉原会長	<p>先ほど、第1部として、全体の概略説明をベースに、さまざまな具体的な事業や取組について説明してもらいました。細かい数字もたくさん出ていますし、委員の皆さんのご意見を見て、「これは自分が書いた意見だな」と思い出された方も多いのではないかと思います。</p> <p>これから、それぞれの事業について意見を深めていただきたいと考えていますが、その前に、まずは先ほどの説明内容について確認したいと思います。数字の意味が分からないとか、評価の仕方がどうなっているのかといった点もあるかと思いますが、ご意見を伺う前に、ご質問があればお受けしたいと思います。</p> <p>先ほどの説明について、何かご質問はありますか。</p>
萬野委員	マイナスの評価というのはどういうことですか。
事務局	<p>「効果あり」と回答をいただいたものについては1点、「効果なし」とご回答いただいたものについてはマイナス1点として集計しています。その結果を積み上げた点数になっており、仮に全員が「効果なし」と評価した場合は、最大でマイナス6点になる仕組みになっています。</p>
萬野委員	マイナス2点というのは、一番低いということですか。
事務局	今回の評価の中では、一番低い点数になります。
萬野委員	無回答の場合は、点数は減らないということですね。
事務局	はい。無回答については0点として扱っています。

萬野委員	<p>ということは、「効果なし」が付くと、マイナス 1、マイナス 2 と積み上がっていくわけですね。</p>
杉原会長	<p>私自身も委員の一人として評価に回答しましたが、短期間ですべての事業を評価するのは正直なところ難しい部分があります。そのため、どうしても無難な評価に落ち着いてしまった面は否めないと感じています。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。先ほどのご質問のように、表の読み方や数字の意味、評価の考え方などについて、内容に入る前に何かご質問があればお受けしたいと思います。</p>
中嶋委員	<p>職業柄、企業創業支援事業のところ少し気になっています。まず質問なんですが、業種としては、どういったものが多いのでしょうか。</p>
萬野委員	<p>国がスタートアップ関係の補助金をかなり出しているので、それをできるだけ活用してもらおうと商工会としても取り組んでいます。最近、やはり飲食業が多いですね。製造業はどうしても少なく、一部はありますが、廃業していくのも製造業が多い状況です。</p> <p>このあたりは元々繊維関係が多かったですが、コロナの補助金で何とか持ちこたえたところも、「このあたりが潮時かな」という判断をされているケースも見られます。転業できるところは転業しています。</p> <p>飲食店については、特定のエリアに集まっているわけではなく、場所はかなりバラバラです。マンションに一部テナントを入れてもらったりしています。</p> <p>なかなか「忠岡町といえばこの産業」というような、分かりやすく魅力的な打ち出しが難しいのが現状です。特色のある事業やメーカーがあれば一番いいと思いますし、そうなれば、ふるさと納税にもつながっていきます。和泉市、高石市では、そうした動きが少しずつ出てきていると聞いています。</p>
中嶋委員	<p>そういう核になる事業ができてくれば、それに関連する産業も出てきて、町全体として盛り上がっていくと思います。私自身もまだまだ勉強が必要ですが、地元の強みを活かした取組が何かできないかと感じています。</p>
安藤委員	<p>プロジェクト 4 についてですが、資料で言うと 14 ページになります。健康寿命が伸びているということだと思っています。健康寿命が伸びているということは、元気な方が増えてきているということだと受け止めています。</p> <p>一方で、「安全・安心に暮らせる町」という観点で見ると、核家族化が進んでいる中で、忠岡町でも独居老人の方が増えているのではないかと感じています。そうした方々が、日常生活の中でどのように暮らしているのか、安心の部分をもう少し広げていく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>独居の高齢者の方々が安心して暮らせる環境を整えていくことで、その方々の経験や力を活かしながら、町の活性化にもつなげていけるのではないかと考えています。その点</p>

杉原会長	<p>について、町としてどのように考えているのか、お聞かせいただければと思います。</p> <p>これは役所の方にお考えを伺うということによろしいですかね？ 独居老人対策。</p>
事務局	<p>福祉の分野になりますが、高齢者については、社会全体で核家族化が進んでいる中で、独居老人対策は今後さらに力を入れていく必要があると考えています。ただ、行政だけで対応できる範囲にはどうしても限界があります。</p> <p>その中で一番大事なのは、やはり地域でのコミュニティづくりだと思っています。現在、防災の取組の中で、避難要支援者と支援する側をマッチングするような仕組みづくりを進めています。具体的には、南区をモデル地区として、民生委員や自治会の方々に集ってもらい、地域で助け合う形のコミュニティづくりに本格的に取り組み始めています。</p> <p>災害時には、やはり一番頼りになるのは近所の方ですので、日頃から地域のつながりを作っておくことが重要だと考えています。独居の高齢者の方にもできるだけ地域の中に出てきてもらい、顔の見える関係を作りながら、地域で支え合っていくことが、最も大切な取組だと考えています。</p>
安藤委員	<p>分かりました、ありがとうございます。</p> <p>これからの技術として、「Wi-Fi センシング」というものが出てくるのではないかと考えています。これは、一人で暮らしていても、家の中の状況が、離れて暮らす息子さんなど家族の方に分かるような仕組みです。こうした技術を忠岡町でも活用していけば、もっと住みやすい環境づくりにつながるのではないかと思います。</p> <p>確かに地域の住民同士で助け合うことが非常に大事だというのはその通りですが、実際にはコミュニティに入りにくい高齢者の方もおられると思います。そういった方々に対して、「こういう方法もありますよ」といった形で、選択肢を行政から提案してもらえると、より良い町になっていくのではないかと感じています。</p>
杉原会長	<p>そうですね。メディアなどでも、LINE のビデオ通話を使って、離れた場所に住んでいても、息子さんが毎日顔を見ながら会話をしているといった事例を聞くことがあります。そうした取組も、独居高齢者の見守りという意味では、やはり大事だと思っています。</p> <p>独居老人の話ですが、実は私も最後に話題提供しようと思っていたテーマです。これは今後、本当に大きな問題になっていくと思っています。今年はいわゆる「2025 年問題」で、団塊世代が全員 75 歳以上、後期高齢者になりました。</p> <p>で、2040 年問題っていうのがありまして、これは要するに絶対数で 65 歳以上の人口が最大になるんです。2040 年頃には、団塊世代の方々は 90 代前半で、まだお元気な方もいらっしゃると思いますが、100 歳、105 歳となるとそうはいきません。配偶者を亡くして単身になられる方や、元々単身のまま高齢期を迎える方も増え、独居老人、単身世帯が 2040 年から 41 年頃にピークになります。</p> <p>そのときの町の姿を想像すると、地域で支え合うとか、テクノロジーを使うとか、いろいろな意見はありますが、実際にその社会になったとき、どうやって一人ひとりの幸せを支えていくのかが、自治体にとって最大の課題になる可能性があると感じています。これ</p>

からの 15 年ほどが本当の正念場だと思っています。

25 年ほど経てば、高齢者問題は数の上では落ち着いてきます。その先は、少子化への対応や、コンパクトな町づくり、世代バランスをどう取るかという話になりますが、まずはこの 15 年をどう乗り切ることが重要です。まだ時間はありますので、先ほど出た提案のようなモデルも含めて、各分野・各層の知恵を集めて、ターゲットを絞った取組を今から進めていくしかないと思っています。

特に独居老人の中でも、男性の独居高齢者が大きな課題だと感じています。女性は比較的元気で、地域のコミュニティも維持しやすいですが、企業で長く働いてリタイアした男性の場合、老後のネットワークづくりが非常に難しい。そのため、これまでの人生経験や知恵を活かしてもらうような町づくりが必要だと思っています。

最近「若い力」や「大学生の力」に期待する声も多いですが、そもそも若者の数自体が少ない。だからこそ、今元気な高齢者にもっと活躍してもらうしかないと思っています。団塊世代前後や、その後の 5 年、10 年の世代は、まだまだ元気な方が多いです。

一昨年ですかね、2022 年だから 2, 3 年前ですか、今ここにも出てますけども、平均寿命を見ると、女性が 87~88 歳、男性が 90 歳程度ですが、これはあくまで平均です。実数で見ると、2022 年時点で女性が最も多く亡くなっている年齢は 93 歳です。こうした状況を見ると、率や平均ではなく、実際に何人いるのかという実数をきちんと見ていく必要があると感じています。数字の見方を間違えると、現実とのズレが大きくなります。率が 1%, 2% 上がったとか、平均がちょっと上がったぐらいは、実際とはかなりかけ離れた、なんていうか現実はもっと厳しい状況になっています。

独居高齢者対策は、今から 5 年、10 年かけて取り組まなければ間に合わないテーマだと思っています。先進的に取り組んでいる自治体は、私の知る限り多くありません。対象は若者、ニューファミリー、子育て支援ってなっていて、それはそれでいいんですけども、現実をお話しするとこれから 15 年の間に起こりうる未来は超高齢者の高齢化社会で、かつ実数が多いという所かなと思います。

町長

会長がおっしゃった話のとおりで、府内を見ても 2040 年に一斉に来るというより、すでに高齢化がかなり進んでいる地域もあります。北摂の能勢町や豊能町、それから南の岬町などは高齢化率が非常に高く、忠岡町が今 28% 台なのに対して、能勢や豊能では 40% を超えています。

高齢化の問題だけでなく、立地条件の問題もあります。忠岡町は小さくてコンパクトな町ですが、形が細長い地形です。もし丸い形であれば、中学校を真ん中に置いて小中一貫校を作るなど、教育の面でももっと効率的な整備ができたかもしれません。

しかし、現実には小学校が 2 校あり、中学校は中央に 1 校あるという配置で、小中一貫校を進めようとしても、どこをどう統合するのかという課題が出てきます。大きな市であれば「そのくらいの距離は歩く」となりますが、忠岡町は近くてコンパクトな生活に慣れている分、少し距離が伸びるだけでも住民から反発が出るのが現実です。

小さな町には小さな町なりの悩みがあり、高齢化対策や町おこしは簡単ではありませんが、どうやっていくのかを本気で考えていく必要があると感じています。

杉原会長	やはり町長がおっしゃるとおりで、本町の場合、教育については、すでに小中一貫教育が可能な体制は整っていると思います。
町長	正直なところ、もうそうならざるを得ない状況でもあります。小学校も歴史があって、150年を超えるような学校ですが、1学年1クラスという状況になってきて、生徒数がこれ以上減ってくると、学校としての体制を維持するのが難しくなってきます。そうなれば、いずれは統合せざるを得ないという現実があります。
杉原会長	<p>だからこそ、先ほど話題に出ていた「特色」や「強み」という点で言うと、私自身は、やはり教育、とりわけ小中学校の教育に忠岡町ならではの特色を出していくことが重要だと思っています。教育で特徴を出すことができれば、人は自然と寄ってくるのではないかと考えています。</p> <p>少し議論が広がりましたが、効果検証の方に戻って、どうでしょうか。</p>
古川委員	<p>労働組合の立場から見て、仕事や人材の部分についてお話しします今回の検証を通じて、町が予算を割り振り、各推進課がさまざまな施策に取り組んでくれていることについては、非常にありがたいと感じています。</p> <p>弊社としても、重点項目2の中の7番、いわゆるレベルアップ事業を活用させてもらっています。資格取得を目指す社員に対して補助金を出してもらえる制度で、社内でも資格取得に向けて勉強する動きが広がっています。忠岡町に拠点を置いている企業として、こうした制度を有効に活用しながら、人材育成に取り組んでいるところです。</p> <p>こうした取組は、ぜひ今後も継続していただきたいと思っています。また、若年層向けの施策として、英検の補助など、小学校・中学校の段階から英語教育に力を入れて取り組まれている点についても評価しています。</p> <p>人を育てて、それがゆくゆくは仕事に育っていってくれるような施策をとっていただければな、と思っております。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございます。他はいかがでしょうか。</p> <p>コメントをすでに頂戴している箇所でも、追加でご意見もいただければと思います。</p>
萬野委員	<p>まず1点目ですが、正木美術館についてです。泉州ミュージアムプロジェクトとして、美術館同士で連携はしているんですが、もう少し広く発信できないかなと思っています。だんじりだけでなく、こうした文化面も取り上げてもらって、例えば「これを見たと言えれば割引があります」といったような仕掛けができれば、文化の面でも人を呼び込めるのではないかと思います。</p> <p>それから忠岡町は、本当に小さな町で、高齢者も多く、昔から誰が誰やという親戚関係や人間関係のコミュニティが、ある程度できあがっている町だと思います。</p> <p>そのコミュニティが、どこで作られてきたかという点、昔はお葬式だったりしましたが、最近ではお寺や神社がその役割を果たしてきた部分もあります。ただ、60代くらいの、いわばこれから高齢期に入る予備軍の人たちが、お寺や神社といった場に、なかなか</p>

杉原会長	<p>参加してこないのが現状です。</p> <p>お寺や神社の方ともよく話をするんですが、何かきっかけになる取組があれば、一番いいのではないかと感じています。</p> <p>確かに、以前はお寺や神社がコミュニティの中核になっていましたよね。</p> <p>60代の方が地域活動に参加しなくなっている理由についてですが、なぜ60代になると一歩引いてしまうのかというと、自分の親世代、90代前後、あるいは亡くなった親の世代で、お寺との付き合いとかお墓の問題で相当な苦労を経験しているからだと思っています。同じ苦労を自分の子どもや孫にはさせたくないという思いが強くなり、これまでの人間関係やネットワークを、少しずつ手じまいして切っていく傾向があるという研究をしてる人もいます。だから今お墓の維持も本当に問題になっています。コミュニティを再生しようと言うのは簡単ですが、全世代型のネットワークコミュニティをどう作っていくのか、課題だと感じています。</p>
安藤委員	<p>全世代型という観点で考えると、各プロジェクトについては、それぞれ担当課に専門の職員の方がおられて、個々の取組としては非常に良いものが多いと感じています。</p> <p>ただ、今後は分野ごとに完結するのではなく、分野を横断した取組が必要になってくるのではないかと感じています。一つ一つの事業はとても優れているのですが、連携することで、さらに相乗効果が生まれるものもあるのではないかと見ていました。</p> <p>そうした横断的な取組を忠岡町の中で意識的に進めてもらえれば、より良い成果につながっていくのではないかと思います。</p>
杉原会長	<p>具体的な事業ですとかプロジェクトで、特に例えばこういう分野っていうか、頂けますでしょうか。</p>
安藤委員	<p>そこについては、正直まだ全体を十分に見切れていない部分もあります。資料を見たのも直近ですので。ただ、例えば子育ての分野がある程度できていれば、最初に話題になった独居高齢者の問題などと、うまく連携させていくことで、少し違った視点で見えてくる部分もあるのではないかと感じました。うまく言えないのですが、そうした連携の可能性を感じています。</p>
杉原会長	<p>大変重要なご指摘だと思います。今のコメントについて、町側から何かありますか。</p>
事務局	<p>ご指摘いただいた点についてですが、役場側、特に今回の取りまとめをしている立場から見ますと、「全世代型」と言える施策は、現時点ではまだ十分に整理できていないというのが正直なところです。</p> <p>今後、我々としても考えていかなければならないのは、全世代型の施策とは何か、という点だと思っています。その一つの切り口として、「世代間交流」は重要な視点ではないかと考えています。ただ、世代間交流をどのようなイベントで行うのか、どのような施策として展開するのかについては、まだ具体的な形にはなっていません。</p>

	<p>例えば、高齢者と小さな子どもたちが交流する場を作ることで、その間にいる親世代も自然と関わるようになり、結果としてコミュニティが形成されていく可能性もあるのではないかと考えています。</p> <p>忠岡町は狭い町ですので、これまで十分に手を付けられていなかった分野は、見方を変えればウィークポイントでもあったのかもしれませんが。そうした点を分析しながら、今後どのような施策を打ち出していくのかについて、町としても検討していきたいと考えています。</p>
杉原会長	<p>大変重要なお指摘ありがとうございます。他はどうでしょうか。</p>
町長	<p>少し余談になりますが、「日本一小さな町」というフレーズを今使っているのは、実は本町だけです。昨年調べたところ、富山県に舟橋村という日本一小さな「村」があります。面積は本町よりわずかに小さく、東京ディズニーランド 7 つ分ほどで、本町とほぼ同じ規模です。</p> <p>舟橋村は富山市のすぐ隣に位置しており、北陸三県で唯一の村です。私の方から働きかけて、リモートで舟橋村の村長と意見交換をさせていただきました。村長は比較的若い方で、もともとは富山市で働いていた舟橋村出身の方です。村の活性化を考える中で、「それなら自分が村長になろう」と決断され、結果として人口が倍増し、「奇跡の村」と呼ばれるようになりました。</p> <p>人口は一時期 1,000 人台まで減少しましたが、現在は 3,000 人弱まで回復しています。職員数も 30 人余りと非常に少ない中での取組です。交通アクセスも富山市に隣接している点で、忠岡町と似た条件があります。</p> <p>舟橋村では、村の中心を流れる川の周辺に、公園、認定こども園、若い世代向け住宅を思い切って整備し、そこを核にコミュニティが形成され、町が活性化していったという話でした。まさに一か八かの取組が、結果として花開いたという印象です。</p> <p>その村長からは、「大阪にそんなに小さな町があるのか」と驚かれ、「同じくらいの面積で 16,000 人以上も住んでいる方が不思議だ」と言われました。忠岡町は関西空港や大阪市内へのアクセスが良く、全域が市街化区域であることを伝えると、非常に驚かれています。</p> <p>こうした話を通じて、やはり話題性やキャッチコピー、いわば「キラリと光る何か」を作ることが、町づくりにおいて重要な起爆剤になるのではないかと感じています。例えば、忠岡町の産品と舟橋村の米を交換するような交流や、小規模自治体同士の連携など、発想次第でいろいろな可能性があると思っています。</p> <p>せっかく小さな町で、小学校も 1 学年 1 クラスという状況であれば、舟橋村を訪問して学ぶ機会を作るのも一つの手ではないかと感じています。今年はそうした形で、一度アプローチしてみたいと考えています。</p>
杉原会長	<p>本日はさまざまなお話をいただきました。正直なところ、宿題もまた増えたかもしれませんが、引き続き、忠岡町のことを一緒に考えていければと思っています。</p> <p>最後に町長からあったお話の中には、一つの可能性も感じましたし、話題づくりという</p>

意味でも、今後いろいろと工夫していけるのではないかと考えています。ぜひ、引き続き皆さんのお力をお貸しいただければと思います。

7. 閉会